

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年12月22日

【中間会計期間】 第65期中(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社 水戸カンツリー倶楽部

【英訳名】 Mito Country Club Co.,Ltd

【代表者の役職氏名】 取締役社長 八 木 良 樹

【本店の所在の場所】 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8231の1

【電話番号】 029(266)1234

【事務連絡者氏名】 取締役支配人 梶 山 典 雄

【最寄りの連絡場所】 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8231の1

【電話番号】 029(266)1234

【事務連絡者氏名】 取締役支配人 梶 山 典 雄

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次		第63期中	第64期中	第65期中	第63期	第64期
会計期間		自 平成26年 4月1日 至 平成26年 9月30日	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 9月30日	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 9月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成27年 3月31日	自 平成27年 4月1日 至 平成28年 3月31日
売上高	百万円	377	369	359	667	657
経常利益	百万円	35	48	30	3	11
中間(当期)純利益	百万円	83	48	30	50	10
持分法を適用した場合の投資利益	百万円	-	-	-	-	-
資本金	百万円	92	92	92	92	92
発行済株式総数	株	1,845	1,845	1,845	1,845	1,845
純資産額	百万円	581	596	588	548	558
総資産額	百万円	1,177	1,163	1,132	1,121	1,117
1株当たり純資産額	円	314,637	323,216	318,833	297,115	302,634
1株当たり中間(当期)純利益	円	44,755	26,096	16,199	27,238	5,513
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	円	-	-	-	-	-
1株当たり中間配当額	円	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	49.4	51.2	51.9	48.9	50.0
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	107	69	50	73	35
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	35	10	31	48	23
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-	-	-	-	-
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	百万円	459	471	443	412	423
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	名 〔名〕	55 〔13〕	55 〔18〕	59 〔15〕	58 〔13〕	58 〔12〕

- (注) 1 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 持分法を適用した場合の投資利益は、子会社等がありませんので該当事項はありません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益は、新株引受権付社債、転換社債等を発行していないので金額は記載しておりません。
- 4 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成28年9月30日現在の従業員は59名であります。

なお、外に臨時職員6名、臨時キャディ9名が在籍しております。

(2) 労働組合の状況

労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

上半期における天候は、春先から雨天の日が多く梅雨明けは猛暑、8月中旬以降は度重なる台風の影響と天候不順による日照不足がありました。グリーンキープファンの設置、日照、通風の改善によりコース全体としてまずまずの状態を保つことができました。

業績についてみますと、天候不順の影響によるキャンセル数の増加と台風の影響により8月30日がクローズになるなど、厳しい営業環境が続いたことからビジター来場者が703名(7.5%)の大幅減少、合計では82名(0.5%)減少の17,481名になりました。

営業収支の面では、来場者の減少により、前中間期比10,223千円(2.7%)減少、平成28年度中間期の総収益は402,362千円となりました。

一方費用の面では、社会保険加入者の増加により福利厚生費が増加したものの、人件費、物件費及びその他の費用等の節減効果が表れ、前中間期に比べ9,306千円(2.4%)減少の総額372,162千円となりました。

その結果、営業損益は12,802千円の損失計上、前中間期比716千円の損失増加、営業外収益は名義登録件数の減少により43,002千円となり、経常損益は30,200千円の利益計上、前中間期比18,259千円(37.7%)の減益となりました。

当中間会計期間の税引前中間純損益は特別損益の計上がないため同額であります。

また、中間純損益は法人税等312千円を差し引き29,888千円(前中間期比37.9%減)の利益計上となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、税引前中間純利益30,200千円になり、営業活動によるキャッシュ・フローは50,298千円の増加、投資活動によるキャッシュ・フローは30,528千円の支出となり、当中間会計期間では前事業年度より19,770千円増加し当中間会計期間末には442,826千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における営業活動の結果、増加した資金は50,298千円と前期に比べ18,579千円の減少となりました。減少の要因は、ビジター来場者の減少などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、防雷小屋3棟など新設に30,528千円投資し、前中間期に比べ20,474千円(203.6%)の増加になりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の収支はありません。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 来場者及びロッジ利用者数

来場者数

		収容能力	メンバー	ビジター	計	一日平均	稼働率
前年上半期	人	22,820	8,241	9,322	17,563	108	77.0
当年上半期	人	22,680	8,862	8,619	17,481	108	77.1
前年上半期対比	%	-	107.5	92.5	99.5	-	-
前年上半期 メンバー、ビジター対比	%	-	46.9	53.1	100.0	-	-
当年上半期 メンバー、ビジター対比	%	-	50.7	49.3	100.0	-	-

ロッジ利用者数

		収容能力	メンバー	ビジター	計	一日平均	稼働率
前年上半期	人	5,379	305	948	1,253	8	23.3
当年上半期	人	5,346	254	836	1,090	7	20.4
前年上半期対比	%	-	83.3	88.2	87.0	-	-
前年上半期 メンバー、ビジター対比	%	-	24.3	75.7	100.0	-	-
当年上半期 メンバー、ビジター対比	%	-	23.3	76.7	100.0	-	-

(2) 収入実績

科目		前年上半期		当年上半期		前年上半期 対比(%)
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	
1. ゴルフ収入		210,642	49.0	201,765	50.1	95.8
内訳	年会費	73,125	17.0	71,479	17.8	97.7
	ロッカーフィ	5,738	1.3	5,598	1.4	97.5
	メンバーフィ	11,361	2.7	12,280	3.0	108.1
	ビジターフィ	117,798	27.4	109,784	27.3	93.2
	競技参加料	2,620	0.6	2,624	0.6	100.2
2. 食堂収入		52,195	12.1	52,119	13.0	99.9
3. その他の収入		106,545	24.8	105,476	26.2	99.0
内訳	キャディフィ	56,865	13.2	56,112	14.0	98.7
	売店収入	4,465	1.1	4,486	1.1	100.5
	ロッジ収入	4,189	1.0	3,748	0.9	89.5
	厚生費収入	8,763	2.0	8,718	2.2	99.5
	施設費	28,040	6.5	27,898	6.9	99.5
	雑売上	3,489	0.8	4,413	1.1	126.5
	販売手数料	734	0.2	101	0.0	13.8
4. 営業外収入		60,545	14.1	43,002	10.7	71.0
内訳	名義変更料	60,500	14.1	43,000	10.7	71.1
	受取利息	45	0.0	2	0.0	4.4
合計		429,927	100.0	402,362	100.0	93.6

(注) 上記金額には消費税は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当中間会計期間において、当会社の事業上及び財政上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

5 【経営上の重要な契約等】

当中間会計期間において、新たに契約した経営上の重要な契約等はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績について

来場者の減少により、中間純利益は29,888千円（前年同期比18,259千円減益）の利益となりました。

(2) 財政状態について

当中間会計期間の税引前中間純利益が、前事業年度に比べ19,405千円増加、手許流動性（流動資産 - 流動負債）は、12,694千円増加、純資産合計についても29,888千円増加しました。

(3) キャッシュ・フローについて

キャッシュ・フローの状況につきましては、第2事業の状況1「業績等の概要」に記載のとおりであります。

(4) 今後の方針

ゴルフ場業界を見渡しても、レジャーの多様化によるゴルフ人口の減少を起因としたプレー料金の低価格化などゴルフ場間の競争は激しく、厳しい営業環境が続くものと予想されております。この厳しい環境を乗り切るためにも、休場日の貸切営業など集客対策に積極的に取り組み、また、経費支出の節減をはかり健全経営の強化に努めて参ります。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前事業年度において、計画中又は実施中の重要な設備の新設、除却等はありません。また、当中間会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)	摘要
普通株式	2,000	
計	2,000	

【発行済株式】

種類	発行数(株)		上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
	当該中間期末現在 (平成28年9月30日現在)	提出日現在 (平成28年12月22日現在)		
普通株式	1,845	1,845	非上場	単元株制度は 採用していない
計	1,845	1,845		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式総数(株)		資本金(千円)		資本準備金(千円)	
	増減数	残高	増減額	残高	増減額	残高
平成28年9月30日		1,845		92,250		30,000

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社日立製作所	東京都千代田区丸の内1-6-6	43	2.33
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2-5-5	36	1.95
日立セメント株式会社	茨城県日立市平和町2-1-1	14	0.76
JX日鉱日石金属株式会社	東京都千代田区大手町2-6-3	14	0.76
日本紙パルプ商事株式会社	東京都中央区日本橋本石町4-6	12	0.65
日立工機株式会社	東京都港区港南2-15-1	10	0.54
株式会社日立アーバンインベストメント	東京都千代田区内神田1-1-4	9	0.49
日立ライフ株式会社	茨城県日立市幸町1-20-2	9	0.49
株式会社日立ハイテクノロジーズ	東京都港区西新橋1-24-14	8	0.43
東鉱商事株式会社	茨城県日立市幸町1 3 8	7	0.38
計		162	8.78

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,845	1,845	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,845		
総株主の議決権		1,845	

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【株価の推移】

非上場のため該当事項はありません。

3 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当半期報告書提出日までにおいて、役員 の 異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の中間財務諸表について、公認会計士大谷茂夫氏及び公認会計士國井貴宏氏の間接監査を受けております。

3 中間連結財務諸表について

当社には、子会社がありませんので、中間連結財務諸表を作成しておりません。

4 財務諸表の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更に対応するため、公認会計士大谷茂夫事務所の指導を受け、また、専門誌などを購読し、財務諸表等の適正性の確保に取り組んでおります。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当中間会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	423,056	442,826
売掛金(純額)	37,772	25,183
たな卸資産	3,794	2,795
その他	-	89
流動資産合計	464,622	470,893
固定資産		
有形固定資産	1 643,663	1 654,378
無形固定資産	290	290
投資その他の資産	8,697	6,382
固定資産合計	652,650	661,050
資産合計	1,117,272	1,131,943
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,709	9,404
未払金	6,043	10,682
未払費用	8,021	7,759
リース債務	3,079	1,540
未払消費税等	2 11,252	2 10,657
未払法人税等	623	312
賞与引当金	12,000	10,284
税金預り金	3,673	3,051
その他	15,825	13,113
流動負債合計	73,225	66,802
固定負債		
リース債務	5,068	5,068
退職給付引当金	48,850	44,656
入会金	429,970	425,370
専用ロッカー預り金	1,800	1,800
固定負債合計	485,688	476,894
負債合計	558,913	543,696

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当中間会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	92,250	92,250
資本剰余金		
資本準備金	30,000	30,000
資本剰余金合計	30,000	30,000
利益剰余金		
利益準備金	15,250	15,250
その他利益剰余金		
別途積立金	510,000	510,000
繰越利益剰余金	89,141	59,253
利益剰余金合計	436,109	465,997
株主資本合計	558,359	588,247
純資産合計	558,359	588,247
負債純資産合計	1,117,272	1,131,943

【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)
営業収益	369,382	359,360
営業費用	312,051	302,413
営業総利益	57,331	56,947
一般管理費	69,417	69,749
営業損失()	12,086	12,802
営業外収益	1 60,545	1 43,002
経常利益	48,459	30,200
特別利益	-	-
税引前中間純利益	48,459	30,200
法人税、住民税及び事業税	312	312
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	312	312
中間純利益	48,147	29,888

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
				別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	92,250	30,000	15,250	510,000	99,313	425,937	548,187	
当中間期変動額								
中間純利益					48,147	48,147	48,147	
当中間期変動額合計	-	-	-	-	48,147	48,147	48,147	
当中間期末残高	92,250	30,000	15,250	510,000	51,166	474,084	596,334	

当中間会計期間(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
				別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	92,250	30,000	15,250	510,000	89,141	436,109	558,359	
当中間期変動額								
中間純利益					29,888	29,888	29,888	
当中間期変動額合計	-	-	-	-	29,888	29,888	29,888	
当中間期末残高	92,250	30,000	15,250	510,000	59,253	465,997	588,247	

【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	48,459	30,200
減価償却費	20,147	19,814
無形固定資産償却費	1,307	1,299
賞与引当金の増減額(は減少)	1,032	1,716
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,330	4,194
受取利息及び受取配当金	45	2
その他の営業外損益(は益)	60,500	43,000
未払金の増減額(は減少)	6,090	4,639
未払費用の増減額(は減少)	271	262
未払消費税等の増減額(は減少)	5,345	595
売上債権の増減額(は増加)	5,089	12,589
たな卸資産の増減額(は増加)	328	999
仕入債務の増減額(は減少)	4,294	3,305
長期前払費用の増減額(は増加)	-	1,016
その他の流動資産の増減額(は増加)	530	89
その他の流動負債の増減額(は減少)	5,556	4,874
その他の固定負債の増減額(は減少)	2,150	4,600
小計	8,955	7,919
その他の営業外収益の受取額	60,500	43,000
利息及び配当金の受取額	45	2
法人税等の支払額	623	623
営業活動によるキャッシュ・フロー	68,877	50,298
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	10,054	30,528
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,054	30,528
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	58,823	19,770
現金及び現金同等物の期首残高	411,903	423,056
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 470,726	1 442,826

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) たな卸資産

最終仕入原価法(貸借対照表評価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)

(2) たな卸資産以外の資産

該当事項はありません。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。但し、平成10年4月以降に取得した建物(付帯設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した付帯設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15～40年

機械装置 5～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、主な償却年数は5年であります。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月30日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

なお、償却期間は10年であります。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員の賞与の支払いに備えて賞与支払見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末に発生していると認められる額を計上しております。

4 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

該当事項はありません。

5 ヘッジ会計の方法

該当事項はありません。

6 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

現金及び現金同等物の範囲

現金及び現金同等物の範囲は、現金、普通預金、当座預金、通知預金、振替預金並びに預入れ期間が1年以内の定期預金であります。

7 その他の中間財務諸表作成の基本となる重要な事項

消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取り扱い」(実務対応情報第32号 平成28年6月17日)を当中間会計期間に適用し、平成28年4月1日以降に取得した付帯設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ232千円増加しております。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月26日)を当中間会計期間から適用しております。

(中間貸借対照表関係)

1 (前事業年度)

有形固定資産の減価償却累計額は、1,914,883千円であります。

(当中間会計期間)

有形固定資産の減価償却累計額は、1,934,697千円であります。

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺し、未払消費税等として表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 営業外収益の主要なもの

	前中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
名義変更料	60,500千円	43,000千円
受取利息	45千円	2千円

2 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
有形固定資産	20,147千円	19,814千円
無形固定資産	1,307千円	1,299千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	1,845			1,845

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	1,845			1,845

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)
現金及び預金勘定	470,726千円	442,826千円
現金及び現金同等物	470,726千円	442,826千円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間期末(期末)残高相当額

前事業年度(平成28年 3月31日)

	その他
取得価額相当額	14,680千円
減価償却累計額相当額	6,533千円
期末残高相当額	8,147千円

当中間会計期間(平成28年 9月30日)

	その他
取得価額相当額	14,680千円
減価償却累計額相当額	8,072千円
中間期末残高相当額	6,608千円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料中間期末(期末)残高が有形固定資産の中間期末(期末)残高に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料

中間期末(期末)残高相当額

	前事業年度 (平成28年 3月31日)	当中間会計期間 (平成28年 9月30日)
1年以内	3,079千円	3,079千円
1年超	5,068千円	3,529千円
合計	8,147千円	6,608千円

(注) 未経過リース料中間期末(期末)残高相当額は、未経過リース料中間期末(期末)残高が有形固定資産の中間期末残
高に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

	前中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)
支払リース料	1,540千円	1,540千円
減価償却費相当額	1,540千円	1,540千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

- ・有形固定資産
 - 車両運搬具
 - 工具、器具及び備品
- ・無形固定資産
 - ソフトウェア

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額(貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

前事業年度(平成28年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金 (2) 売掛金	423,056 37,772	423,056 37,772	
資産計	460,828	460,828	
(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払費用 (4) リース債務(流動負債) (5) 未払消費税等 (6) 未払法人税等 (7) 税金預り金 (8) リース債務(固定負債)	12,709 6,043 8,021 3,079 11,252 623 3,673 5,068	12,709 6,043 8,021 3,079 11,252 623 3,673 5,068	
負債計	50,468	50,468	

当中間会計期間(平成28年9月30日)

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金 (2) 売掛金	442,826 25,183	442,826 25,183	
資産計	468,009	468,009	
(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払費用 (4) リース債務(流動負債) (5) 未払消費税等 (6) 未払法人税等 (7) 税金預り金 (8) リース債務(固定負債)	9,404 10,682 7,759 1,540 10,657 312 3,051 5,068	9,404 10,682 7,759 1,540 10,657 312 3,051 5,068	
負債計	48,473	48,473	

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金 (2) 売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払費用 (5) 未払消費税等 (6) 未払法人税等 (7) 税金預り金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) リース債務(流動負債) (8) リース債務(固定負債)

時価については、元利金の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合を想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引をしていないので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社は、ゴルフ場事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

当社は、ゴルフ場事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社はゴルフ場運営事業の単一セグメントであり、ゴルフプレーを行う顧客から、入場料、キャディフィ、施設使用料、食堂売店等により収入を得ております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

当社は在外拠点がないため、記載はありません。

(2)有形固定資産

当社は本邦以外に有形固定資産を保有していないため、記載はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社は、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社はゴルフ場運営事業の単一セグメントであり、ゴルフプレーを行う顧客から、入場料、キャディフィ、施設使用料、食堂売店等により収入を得ております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

当社は在外拠点がないため、記載はありません。

(2)有形固定資産

当社は本邦以外に有形固定資産を保有していないため、記載はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社は、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありませ

ん。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成28年3月31日)	当中間会計期間 (平成28年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	302,634円	318,833円

項目	前中間会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当中間会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益	26,096円	16,199円
(算定上の基礎)		
中間純利益(千円)	48,147	29,888
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る中間純利益(千円)	48,147	29,888
普通株式の期中平均株数(株)	1,845	1,845

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、新株引受権付社債、転換社債等を発行していないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出の日までの間に、次の書類を提出しております。

1. 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第64期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)平成28年6月24日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成28年12月21日

株式会社水戸カンツリー倶楽部
取締役会 御中

公認会計士大谷茂夫事務所

公認会計士 大 谷 茂 夫

國井公認会計士事務所

公認会計士 國 井 貴 宏

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社水戸カンツリー倶楽部の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第65期事業年度の中間会計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、私たちに中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

私たちは、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社水戸カンツリー倶楽部の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは中間監査の対象には含まれていません。